

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：教授

氏名：渡邊 完児

研究分野	研究内容のキーワード
運動生理学	身体組成評価法、エネルギー代謝、運動処方
学位	最終学歴
博士（学術）、教育学修士	大阪教育大学大学院 教育学研究科 保健体育専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 女子大学生を対象とした大学施設を利用した階段昇降時の生理的及び主観的反応	共	2024年3月刊行	健康・スポーツ科学	本研究は、大学生が身近な施設で手軽に身体活動に取り組むことができる基礎的研究として階段昇降運動に着目し、昇降時の生理的反応及び主観的運動強度を明らかにすることを目的とした。各測定場所における階段昇降時の平均心拍数と最大心拍数には有意な差が認められなかった。また、各測定場所における運動強度は、いずれも上りが下りに対して有意な高値を示した ($p < 0.01$)。研究結果から手軽に実施できる運動として身近な施設の階段を利用した昇降運動は適当な運動手段と考えられた。
2. Single Ingestion of Trehalose Enhances Prolonged Exercise Performance by Effective Use of Glucose and Lipid in Healthy Men	共	2021年4月24日	Nutrients	本研究は、長期にわたる運動パフォーマンスに対するトレハロースの影響について検討することを目的とした。主な成績としては、長時間の運動中に8%トレハロースを単回投与した後のアドレナリン分泌の低下は、運動後期における体内の炭水化物の保存を反映していた。結論として、トレハロースの1回の摂取は、長期間の運動パフォーマンスの維持に役立つことが分かった。
3. 2年連続して健康教室に参加した中高齢女性の身体活動量、身体組成、体力および筋量の変動について	共	2013年12月	日本健康体力栄養学会	本研究は2年連続して健康教室に参加した中高齢女性の身体活動量、身体組成、体力、筋量、栄養摂取状況がどのように変動するのかについて検討した。その結果、多くの測定項目で機能の改善がみられ、体脂肪量も徐々に減少することが明らかにされた。また、身体活動量は季節性が関与している可能性が示唆された。
4. 世代構成別にみた女性高齢者の生きがいに関する研究	共	2013年	健康運動科学	本研究は60歳以上の女性高齢者を対象とし、世帯構成別に「生きがい」を規定する関連要因について検討した。女性高齢者においては、世帯構成の違いで生きがい感を高める要因が異なることが明らかにされた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 超高強度間欠性運動パフォーマンスに及ぼす異なる種類の糖質摂取の影響	共	2013年	健康運動科学	本研究は、超高強度間欠性運動 (Wingate Test) と持久的運動が混在する運動中に糖質を摂取することによって、その後続く Wingate Test のパフォーマンスに及ぼす影響を明らかにするとともに、摂取飲料における異なる種類の糖質 (グルコース・フルクトース・トレハロース) による効果についても検討した。その結果、長時間継続する運動前に摂取する糖質にはトレハロースが有効であると考えられた。
6. 世代構成別にみた女性高齢者の生きがいに関する研究	共	2013年	健康運動科学	本研究は60歳以上の女性高齢者を対象とし、世帯構成別に「生きがい」を規定する関連要因について検討した。女性高齢者においては、世帯構成の違いで生きがい感を高める要因が異なることが明らかにされた。
7. Quantification of carbohydrate and fat oxidation during low-impact aerobic dance	共	2012年10月	Jap J Healyh Fit Nutr	本研究はlowインパクトのエアロビックダンス中の糖質及び脂質酸化量について検討した。その結果、脂質酸化量は運動の経過とともに徐々に上昇したことを明らかにした。
8. 立体モデルに基づく大腿部体積の評価	共	2009年12月	日本健康体力栄養学会	本研究は大腿部の体積計測に及ぼす立体モデルと分割の程度について検討した。その結果、大腿部の体積を計測する際には円錐台モデル (分割をしない条件) が最も精度が高いことを明らかにした。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2017年10月20日		日本健康体力栄養学会誌 (英文) 査読		
2. 2017年5月12日		日本健康体力栄養学会誌 (英文) 査読		
3. 2017年3月9日		日本健康体力栄養学会誌 (和文) 査読		
4. 2016年10月14日		日本健康体力栄養学会誌 (英文) 査読		
5. 2014年4月15日～2024年現在		大阪市立天満中学校学校協議会委員		
6. 2014年4月6日～2024年現在		大阪市立扇町小学校協議会委員 日本生理人類学会 日本運動生理学会 日本体力医学会		